



2024 年度検討テーマ

「安全で効果的な投薬プロセス」
投薬は複雑なプロセスから構成されているため、診療上のエラーが発生しやすい。
各施設における投薬プロセスを共有することで、自施設の安全向上に役立てていただくことを目的として活動した。

部会員一覧

(敬称略・五十音順)

◎=部会長、○=副部会長

赤木 晋介○	就実大学 薬学部
川井 信孝◎	埼玉医科大学国際医療センター
菅野 浩	社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市東部病院
佐藤 みづほ	独立行政法人国立病院 機構 西新潟中央病院
佐藤 康弘	医療法人社団康心会 茅ヶ崎中央病院
高橋 香織	社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院
宅和 真由美	パナソニック健康保険 組合 松下記念病院
土師 菜緒子	国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
米倉 一郎	独立行政法人地域医療 機能推進機構 東京新 宿メディカルセンター

活動報告／成果物等

セミナーの実施

- ・ 第1回セミナー
8月17日開催（グループワーク形式、オンライン）
> [開催報告](#)
- ・ 第2回セミナー
12月4日開催（シンポジウム形式、オンライン）
> [開催報告](#) / [アーカイブ配信](#)

総括

院内で報告されるインシデントを事象別に分類した場合、多くの施設で薬剤関連インシデントが最も多いのではないのでしょうか。したがって、認定病院における患者安全を考える上で、薬剤関連インシデントの低減は非常に重要であると考えます。

特に、投薬プロセスは医師の処方、薬剤師による処方監査や調剤、看護師による指示受けや与薬など、多職種による複雑なプロセスから構成されています。このため、コミュニケーションエラーや誤認が生じやすく、結果としてさまざまなインシデントが発生する可能性があります。

そこで、薬剤安全部会では2022年度より「安全で効果的な投薬プロセス」をテーマに掲げ、アンケートやセミナーを通じて継続的に検討を行っています。

本年度は投薬プロセスの中で、「手術室における薬剤の安全管理」と「検査処置部門における薬剤の準備・調製」という、薬剤師の関与が薄くなりやすい業務工程に焦点を絞って検討しました。8月17日に実施したオンライングループワークには、認定病院から26名が参加し、活発なグループ討議が行われました。多職種かつ初対面の参加者が、ウェブのバリアを越えて効率よく討議を行い、素晴らしい成果を発表しました。

また、12月4日に行ったオンラインウェブセミナーでは、教育講演や認定病院からの取り組み事例の発表があり、聴講した185名から多くの質問や意見が寄せられ、盛況に終わりました。

薬剤安全部会では、これらのセミナーに参加できなかった方々にも部会活動を確認していただけるよう、PSPのウェブページでセミナーの見逃し配信を行っています。また、会員病院のご協力で収集した資料も公開しており、皆様の施設でも参考にさせていただけるものと考えていますので、ぜひご確認ください。

(部会長・川井 信孝)